

いちにのさんしん



日本医療機能評価機構
認定病院

原三信病院 広報誌

2017.1.1
No.58

特集

多発性のう胞腎

撮影地：「長者原より硫黄山を望む（撮影地：大分県玖珠郡九重町長者原）」 写真部 田中 満行

病院理念

病人のための病院

病院基本方針

- 一、質の高い医療の追求
- 一、居心地の良い環境の提供
- 一、心のこもったサービスの実践

CONTENTS

- トピックス・さんしんニュース…………… 1
- THEがんばる人「看護助手」…………… 2
- 特集「多発性のう胞腎」…………… 3
- 栄養科だより・薬の豆知識…………… 4
- 新・原三信「新棟 新着 情報 Vol.12」…………… 5
- 暮らし歳時記・香椎原病院だより…………… 6

介護保険制度のご紹介

介護保険制度をご存知ですか?ご自宅で生活するのに身体介助・家事支援・リハビリ・医療的管理が必要になられた方を支援するための制度です。対象は1号保険者・65歳以上で介助を要する方、2号保険者・40歳以上65歳未満で特定疾患に該当し介助を要する方です。

サービスを利用するには、お住まいの区役所や役場で申請が必要です。

最初に聞き取り調査(認定調査といいます。本人がどれだけ動けるか、理解力の程度を確認します。)を受けます。次にかかりつけ医からの主治医意見書(病状、理解力、生活動作に関する評価)を提出して頂き、介護度(介護保険の等級)が決まります。介護サービスも様々な種類があり、どのサービスを利用したらいいのかわかりにくいと思います。ご不安な点やお聞きになりたいことがございましたら、ソーシャルワーカーにご相談下さい。

その他、地域包括支援センター(「福岡市はいきいきセンター」と名称が変わります)でも

介護保険の紹介・相談対応を
しております。



メディカルソーシャルワーカー
城間 夏美



さんしんニュース SANSHIN NEWS

最近の
原三信病院の
動き

呉服町腎クリニック巡回バス運行開始

現在、原三信病院附属呉服町腎クリニックでは、約130名の方が血液透析を受けておられます。少しでも通院されている患者さんのサポートとなるように、原三信病院と呉服町腎クリニックの近隣の方のみが対象ではありますが、2016年11月より巡回バスを運行することになりました。

巡回バスのご利用に関しては、呉服町腎クリニックで昼の血液透析を受けられている患者さんが対象で完全予約制となります。ご希望される方は、呉服町腎クリニック受付にお尋ね下さい。



時刻表 ~完全事前予約制~

原三信病院 ⇒ 呉服町腎クリニック			呉服町腎クリニック ⇒ 御供所分団車庫前		
原三信病院	発	8:00	呉服町腎クリニック	発	14:55
大浜公園	発	8:04	原三信病院	着	15:02
対馬小路	発	8:11	大浜公園	着	15:05
奈良屋公園	発	8:15	対馬小路	着	15:11
冷泉公園	発	8:20	奈良屋公園	着	15:14
櫛田神社	発	8:24	冷泉公園	着	15:18
御供所分団車庫前	発	8:32	櫛田神社	着	15:21
呉服町腎クリニック	着	8:36	御供所分団車庫前	着	15:28

交通状況にて発着に遅れが生じることがありますので、ご了承下さい。

Q 看護助手とは？

A 看護師や准看護師と違って資格を持たないため、医療行為以外の業務をサポートしています。病棟、外来、手術室などに勤務し入院している患者さんの身の回りのお世話や患者さんの家族への連絡、診療の際の誘導、備品管理などを担当しています。

Q 仕事内容は？

A 病棟勤務者は、入院中、気持ち良く過ごして頂く為の環境整備(ベッドメイキング・ベッド周りの拭き掃除・退院片付け等)、お食事の介助や入浴の介助、患者さんの誘導(外来受診・検査・X線撮影室等)、他院から入院や他病棟からの転棟患者さんのご案内などを行い、外来勤務者(手術室・内視鏡センター・透析室)は、処置の準備、後片付け、器具の洗浄などを行っております。その他メッセージ業務(検体運搬、薬剤、物品の調達)や、リネン管理なども行っております。



ベッドメイキングの様子

「

THE

が
ん
ば
る
人

」

看護助手

い
ち
に
の
さ
ん
じ
ん
注
目
!

Q 大変なこと、やりがいは？

A 患者さんからの訴えが分からず、なかなか的確な対応が出来なかったときや、物理的な痛みを緩和してあげられないときは辛く感じますが、シーツ交換のときに「ありがとうございます。シーツを新しく交換してくれると気持ちよく寝られるわ。」と患者さんの笑顔を見ることが出来たときは嬉しく思います。



看護助手研修会の様子

Q PRメッセージ

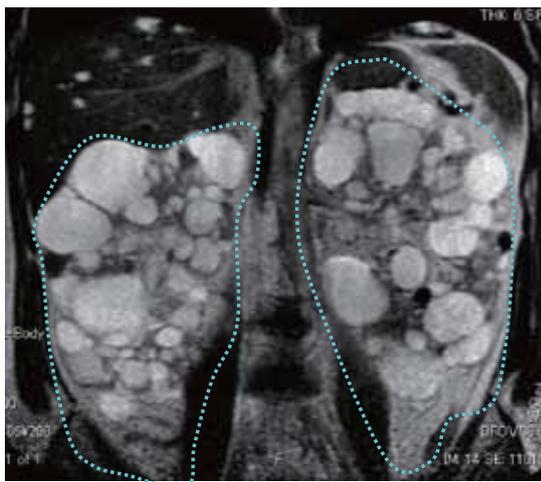
A 「基礎知識・専門技術の習得と向上」を目標に定期的に勉強会を開き、自分たちでテーマを決め、看護助手としての知識や技術を習得出来るよう頑張っております。原三信病院にとって「縁の下の力持ち」となれるよう、そして患者さんにとってもっと身近な存在になれるようこれからも頑張っていきたいと思っております。私たちに出来ることはお手伝いさせていただきますのでいつでもお声掛け下さい。



看護助手
スタッフ

多発性のう胞腎(たはつせいのうほうじん)は腎臓に“のう胞”がたくさんできる遺伝性の病気です。3,000~7,000人に1人の発症率とされており、遺伝性腎疾患の中で最も多いと言われていています。のう胞とは袋のことで、中には液体が詰まっています。年を取るにつれてのう胞の数が増え、大きさが大きくなることで腎臓はふくれていきます。しかし、のう胞の部分は正常に機能しないため、腎臓の機能は低下していきます。半数の方で70才までに腎不全が進行し透析療法や腎移植が必要になります。

多発性のう胞腎の患者さんの腎臓MRI (46歳 男性)



自覚症状としては、お腹が張る感じ(腹部膨満感)や腹痛がみられます。そのほかに血尿があったり、のう胞に細菌などが感染すると発熱や痛みがあったりします。また高血圧や脳動脈瘤を合併することが多く、脳出血、くも膜下出血など脳血管障害にも注意が必要です。

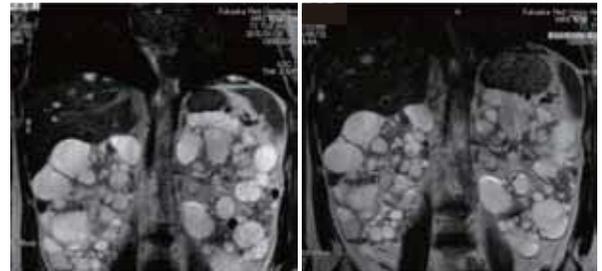
診断には家族歴が重要な手がかりになり、両方の腎臓に各々3個以上、のう胞があれば多発性のう胞腎の疑いがあります。のう胞を確認するには超音波やCT、MRIなどの画像検査が有用です。

これまでは数が増え、サイズが大きくなっていくのう胞自体に対しての有効な治療法がなく、降圧薬での

血圧コントロールや腎機能低下に対する食事制限などが治療の主体でした。2014年からトルバプタンという薬剤が投与可能となりました。トルバプタンには多発性のう胞腎の腎容積増大や腎機能低下を抑制する効果が認められています。一方で、強力な利尿作用もあるため、尿量が大幅に増加します。また、高ナトリウム血症や肝機能障害などの副作用が起こりうるので、入院して投与開始する必要があります。

内服開始前

内服開始6か月後



腎容積 2405ml

腎容積 2418ml

トルバプタン開始後、腎容積増大速度は
年11%→1%に低下した

実際の患者さんの治療経過です。46才の男性の方で、これまで1年あたり11%の割合で腎臓が大きくなっていました。トルバプタンを投与開始して半年後の時点で、大きくなる割合が1%に抑制できていました。のう胞がなくなるわけではなく根本的な治療とは言えませんが、のう胞が大きくなることになる痛みの減少や、腎機能低下の抑制が期待できます。なお、この治療には難病医療費助成制度を利用できる場合があります。

詳しくはかかりつけの医師、または原三信病院 腎臓内科に御相談ください。



腎臓内科
部長 四枝 英樹



栄養科だより



栄養科
東 さやか

『ほうれん草』日本には東洋種が中国から伝わり、のちに西洋種が導入され、現在は両者の交配種が主流になっています。カロテンの多い緑黄色野菜の中でも栄養価は抜群。鉄、マグネシウム、マンガン、亜鉛などのミネラル類、ビタミンB₆、C、葉酸などを含み、貧血の予防に効果的と言われています。

季節の
レシピ

ほうれん草と卵のココット



【栄養成分】1人分
エネルギー:220Kcal
蛋白質:10.6g
塩分:0.8g

材料(1人分)

ほうれん草	1/2束	じゃが芋	小1/2個
ベーコン	1/2枚	ミニトマト	2個
サラダ油	小さじ1	塩こしょう	少々
卵	1個	スライスチーズ	1/2枚

保存方法 ・冷蔵の場合、葉先が乾かないようしめらせた新聞紙に包み、ビニール袋に入れる。
・冷凍の場合、かために茹で、ラップで包む。

見分け方 ・葉の色が濃く、葉先がピンとしており、みずみずしいもの。

作り方

1. ほうれん草は2cm幅、ベーコンは1cm幅、じゃが芋は千切り、ミニトマトは4等分に切る。
2. フライパンにサラダ油をひいて、①を炒め塩こしょうで味をつける。
3. 盛り付ける皿に②をいれる。
4. 卵を割り入れ、スライスチーズを乗せる。
5. 卵が破裂しないように黄身に数か所小さな穴をあける。
6. トースターで約5分焼く。

薬の豆知識



薬剤科 牧 陽子

ノロウイルスについて

ノロウイルスによる食中毒や感染性胃腸炎は、一年を通して発生していますが、10月頃から流行が始まり、12～1月にピークを迎えます。

感染の原因として、ウイルスに感染した牡蠣などの二枚貝・調理器具、感染者の嘔吐物やふん便などが挙げられます。

ウイルスが体内に入ってから24～48時間で激しい嘔吐や下痢、腹痛が発生し、発熱、頭痛など風邪のような症状もみられます。

現在、このウイルスに効果のある抗ウイルス薬はないため、治療は通常、対症療法となります。吐き気には吐き気止め、嘔吐・下痢による脱水症状には経口輸液、経静脈輸液が中心に用いられます。

下痢止めはウイルスを体内に留めることになるの

で、服用してはいけません。

帰宅時や食前には、流水とせっけんによる手洗いを徹底するほか、二枚貝は生で食べない(85度以上で最低1分は加熱)、調理器具なども85度以上の熱湯で1分加熱消毒をするなど対策を行いましょ。





新・原三信

新棟

新着

情報

Vol.12

移転後の外科外来のご紹介です。

平成28年3月、新設された東館2階に外科・乳腺・腎移植外来が移転しました。

東館2階フロア内で、受付、会計も行う事が出来ます。採血室、レントゲン検査室、超音波検査室も同じフロアにあり、診察室横には乳腺専用の超音波検査室、ストーマ創傷ケア外来も併設しています。

処置室は、広いスペースと充実した設備で安全を考慮した構造になっており、全体的にコンパクトで他科とも連携が取りやすく働きやすい環境であるとスタッフから好評です。

また当外来も表示システムを導入することにより全外来がモニタ上で受付番号表示による呼び出しをすることが出来るようになり個人情報を守るだけでなく、静かな環境を提供できました。明るく広い待合室や、1階フロアの自動受付機などと共に患者サービスの向上につながっています。



外科受付



乳腺超音波検査室

当診療科では悪性疾患(消化器がん、肝胆膵がん、肺がん、乳がん、甲状腺がん)良性疾患(鼠径ヘルニア、胆石症、虫垂炎、痔、気胸、甲状腺、副甲状腺機能障害など)の治療や腎移植後の全身管理を行っています。痛みが少ない腹腔鏡下・胸腔鏡下手術や日帰り手術も数多く行っており患者さんのご希望や生活スタイルに沿うよう対応しております。

当外来では、経験豊富な看護師が手術前後の管理・検査・治療について病棟や化学療法室と情報共有し、患者さん・ご家族の気持ちに寄り添った支援ができますよう説明やアドバイスを行っております。

さらにストーマ創傷ケア外来では皮膚・排泄ケア認定看護師によるストーマ造設後のケア、乳腺外来に併設されたリンパ浮腫外来では乳がん手術後のリンパ浮腫予防指導や専門看護師による施術を行います。腎移植外来はレシピエントコーディネーターが中心となり腎移植後の免疫抑制剤の内服・自己管理指導、生活習慣病対策やがん検診の推進を行っています。



スタッフ

ハード面での充実に加えて、各スタッフがその専門性を生かし、安心して検査や治療をうけられるよう患者さんおひとりおひとりと向き合い、しっかりとサポートできる外来を目指しております。

外科外来
主任 矢嶋 光江

暮らし歳時記

昔から大切にされてきた四季折々の行事や旬のものには、暮らしを豊かにするヒントがいっぱい。上手に取り入れて、もっと季節を楽しんでみませんか？

1月〈睦月〉お屠蘇

元旦の朝、家族の無病息災を願っていただくお屠蘇。中国で不老長寿の薬酒として飲まれていたもので、日本には平安時代の宮中行事として取り入れられました。現在でも、山椒、桔梗、肉桂などを調合した「屠蘇散」が薬局などで売られていますね。

飲む順番は若い人から年長者へ。若い人の生気を年長者に渡すという意味や、毒味の名残と言われています。本来は三段重ねの盃で1杯ずつ3回に分けて飲みますが、略式では1つの盃に3回に分けて注ぎ、3回に分けて飲み干します。

2月〈如月〉初午

初午は2月最初の午の日で、全国各地の稲荷神社では豊作、商売繁盛、開運などを祈願します。旧暦の2月は現在の3月にあたり、米作りを始める時期なので、原型は豊作祈願だったのでしょうか。稲荷の名前は「稲生り」から来たとも言われます。

稲荷神社では狛犬に代わりきつねが神社を守っているので、初午には好物の油揚げや油揚げにすし飯を詰めたものを奉納しました。これが「いなり寿司」の始まり。東日本では米俵に見立てた俵型、西日本ではきつねの耳に見立てた三角型が主流です。

3月〈弥生〉桜餅

春になると食べたくなる桜餅。小麦粉などで作った生地にあんを巻いた関東風と、道明寺粉で皮を作りあんを包んだ関西風の2種類があります。

どちらのタイプも桜の葉の塩漬けで包まれているようですが、全国で使われるほとんどは静岡県伊豆で作られています。新緑のころ、柔らかく産毛が少ない「大島桜」の葉を1枚ずつついでに摘み取り、約1年間塩漬けにするとか。この葉を桜もちと一緒に食べるかどうかは意見が分かれるところですが、手間をかけて作られた葉にも注目したいですね。



香椎原病院だより

リハビリテーション科 新アイテムのご紹介

HONDA 歩行アシストロボット技術を導入

今年度より HONDA が開発した「歩行アシストロボット」技術を導入いたしました。電動アシスト付自転車と同じように、患者さんの歩行をモーターでお手伝いします。

専用タブレットで、患者さんの歩行データの読み取り・分析が可能で、患者さんにも変化点をわかりやすく伝えることができます。分析データをもとに、正常に

近い状態へ歩行を調整し、訓練を行なうことができます。

リハビリスタッフが培ってきた知識と経験に加え、ロボット工学的な技術を導入し、患者さんにとってより良いリハビリテーションを提供していきます。



写真は新入職スタッフによる装着訓練の様子

香椎原病院
リハビリテーション科

科長 梅崎 浩嗣

